# サードパーティ製のUSB-Cで制限されるルームバー機能のトラブルシューティング

## 内容

## 問題

Eaton Tripp Lite USB-CとUSB-Cのプレナム定格ファイバアクティブ光ケーブルを使用したズーム設定で、BYOD機能のためにラップトップをUSB-C経由でCisco Room Barに接続すると、カメラのみがラップトップで検出されます。マイク、スピーカー、および画面/コンテンツ共有機能が機能しないため、ラップトップからルームバーデバイスへのBYODオーディオ/ビデオおよび表示/コンテンツ共有機能が完全に動作しません。

## 環境

- Zoom for Cisco Rooms用に設定されたCisco Room Barデバイス
- Eaton Tripp Lite USB-C to USB-Cプレナム定格ファイバアクティブ光ケーブル（50フィート）
- USB-C経由でBYOD接続を試行しているラップトップ
- 同じケーブルタイプの影響を受ける複数のルームバーの設置

## 解決方法

ステップ1:USB-Cケーブルのメーカーとタイプを確認します。特に、通常は長い配線に使用される指向性の光ファイバUSB-Cケーブルに関して問題が見られます。

ステップ2:単方向の場合は、ケーブルが正しい方向に接続されていることを確認します。

ステップ3:検証済みのUSB-Cケーブルまたは短い銅USB-Cケーブルでテストし、問題が解決されるかどうかを確認します。

さらにトラブルシューティングが必要な場合は、次のコマンドを使用してSSH経由でUSB-C接続のステータスを監視できます。

USB-Cモニタロギングを有効にします。

```
log ctx UsbcMonitor debug 9
```

コンソールにログを直接出力：

```
log output on
```

DisplayPort Alt-ModeおよびUSB 3.1データサポートを備えたフル機能のUSB-Cケーブルからの予想される出力：

```
UsbcMonitor[1]:  plug_present       1 (if USB-C cable is connected to Room Bar USB-C port, 0 if not)
UsbcMonitor[1]:  power_connection   1 (if USB-C cable is capable of power draw)
UsbcMonitor[1]:  power_contract     5/3000 (0/0 when no cable connected)
UsbcMonitor[1]:  power_direction    sink (source sends power, sink receives power)
UsbcMonitor[1]:  plug_orientation   upside_up (upside_down if USB-C plug orientation is flipped)
UsbcMonitor[1]:  vconn_enabled      0
UsbcMonitor[1]:  cable-info-valid   0
UsbcMonitor[1]:  dp_alt_mode connected true (false if dp_alt_mode is not detected - Room Bar will not b
UsbcMonitor[1]:  dp_alt_mode portrole UFP (Upstream Facing Port, acting as the sink or receiver of the
```

完了時にUSB-Cモニタのロギングを無効にする：

```
log ctx UsbcMonitor debug 0
log output off
```

## 推奨ソリューション

オプション1：シスコ検証済みケーブルの使用

イートンケーブルを、DisplayPort AltモードとUSB 3.1+データ伝送の両方をサポートするCisco USB-Cケーブルに交換します。

オプション2：サードパーティ製ケーブルの要件

サードパーティ製のUSB-Cケーブルを長い配線用に使用する場合は、次の仕様を満たしていることを確認します。

- DisplayPort Altモードのサポート
- USB 3.1またはUSB 3.2データのサポート
- Cisco Room Barデバイスとの互換性を検証
- より長い配線にはTX/RXデバイスを使用するCAT-6ケーブルを使用するUSB-C拡張キットを検討してください。

## 原因

Eaton Tripp Lite USB-C to USB-Cプレナム定格ファイバアクティブ光ケーブルは、主にビデオ伝送用に設計されており、ルームバーBYODの運用に必要な完全なUSBデータ機能を提供しません。さらに、USB-C経由のラップトップのスピーカー音声は、DisplayPort Alt-Modeビデオ出力に統合されているため、ラップトップがケーブルの制限によりディスプレイとして会議室バーを正しく検出できない場合、会議室バーへの音声出力も失敗する可能性があります。

## 関連コンテンツ

- CiscoデバイスをWebカメラとして使用してラップトップから発信する
- Cisco USB-Cケーブルデータシート
- シスコのテクニカルサポートとダウンロード

翻訳について
シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。